

口腔がん検診について

1. 口腔がんの現状

口腔がんとは、舌を含む顎口腔領域に発生する悪性腫瘍の総称であり、発生部位別では、舌がんが約6割を占める。人口の高齢化に伴って、わが国における口腔がんの罹患数は、1975年の2,100人から30年後には約3倍(2005年6,900人)となり、2015年には7,800名を超えると予測されている。これは、全癌の約1%、全頭頸部癌の約40%を占める(「口腔癌診療ガイドライン2013年版」)。

口腔は消化器系の入り口として、喫煙や飲酒、また虫歯や不適合な義歯などによる刺激など、発がんにかかる危険因子が複数存在することが特徴である。

2. 口腔がんの早期発見・早期治療の必要性

口腔がんが進行すれば、咀嚼・嚥下・発音などの口の機能に影響をおよぼすだけでなく、手術による顔貌の変形などを伴うこともあるため、口腔がんの早期発見・予防は大変重要である。

3. 神戸市のがん検診

現在、神戸市が実施しているがん検診は、国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づく5つのがん(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん)に加え、兵庫県予防医学協会及びJA兵庫厚生連への補助事業である前立腺がんの6種類である。

4. 今後の方向性

口腔がん検診は、視診、触診などにより実施することが可能なため、被験者にとって極めて侵襲が少ない検診である。他都市では、口腔がんの啓発および歯科医療等関係者の資質向上を目的に、口腔がん検診を実施しており、今後、検討していく。

口腔がんについて

日本癌治療学会「がん診療ガイドライン」等より抜粋

口腔がんは顎口腔領域に発生する悪性腫瘍の総称である。口腔は歯以外の表面が扁平上皮からなる粘膜で被覆されているため、病理組織学的に口腔がんの90%以上は扁平上皮癌であり、その他としては小唾液腺に由来する腺系癌や、肉腫、悪性リンパ腫、転移性癌がある。

WHO は、頬粘膜、上顎歯槽と歯肉（上顎歯肉）、下顎歯槽と歯肉（下顎歯肉）、硬口蓋、舌、口底に発生した癌を口腔癌と定義している。

わが国における口腔癌罹患者は1975年には2,100人、2005年には6,900人であったが、2015年には7,800人になると予測されている。全癌の約1%、全頭頸部癌の約40%を占める。年齢調整による男女比は3:2と男性に多く、人口の高齢化に伴って口腔癌の罹患数も増加しつつある。

【最新情報】

口腔癌は悪性腫瘍の約1%程度と言われていますが、2012年の新規登録は7,000名を超えたということです。おおまかな見積もりで1.8万人に1人の割合となります。

（日本歯科医師会雑誌 vol.68 No.2 2015.5 「口腔粘膜の病気 “日常の診療で口腔癌検診を”」）

口腔は消化器系の入り口として、喫煙や飲酒、食物などによる化学的刺激に曝露され、また齲歯や不良な歯科補綴物による機械的刺激があり、発癌にかかわる特殊な環境と危険因子が複数存在することが特徴である。

CQ わが国における口腔癌の好発部位はどこか？

わが国における口腔癌の好発部位は舌である。

【解説】2002年の日本頭頸部癌学会の集計では、わが国における口腔癌の部位別発生割合は、舌60.0%、頬粘膜9.3%、口底9.7%、上顎歯肉6.0%、下顎歯肉11.7%等と報告されている。

CQ 口腔癌の危険因子は何か？

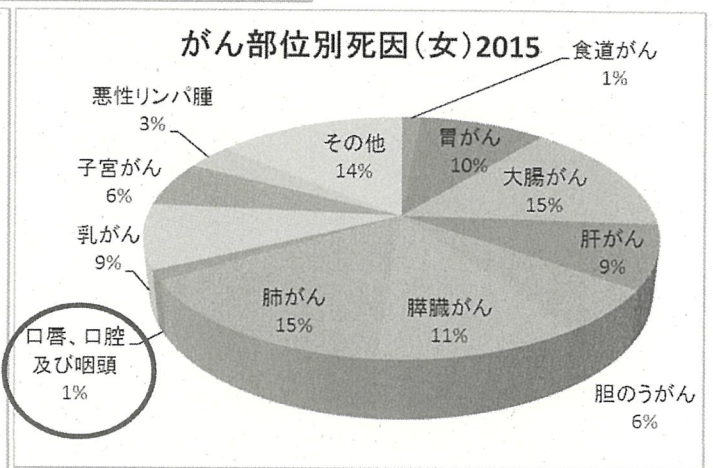
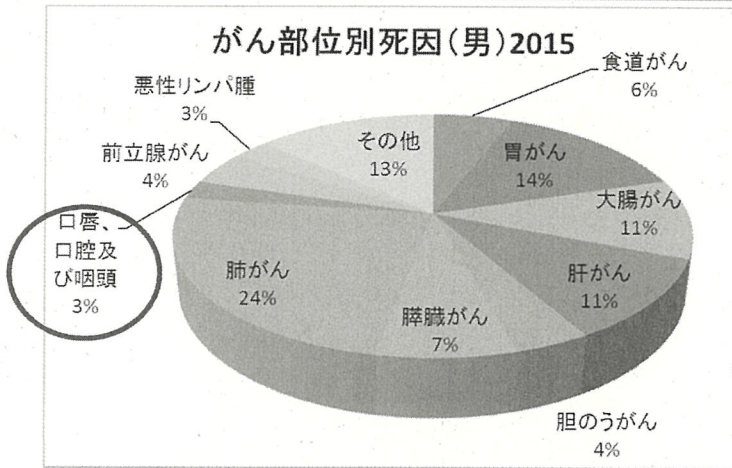
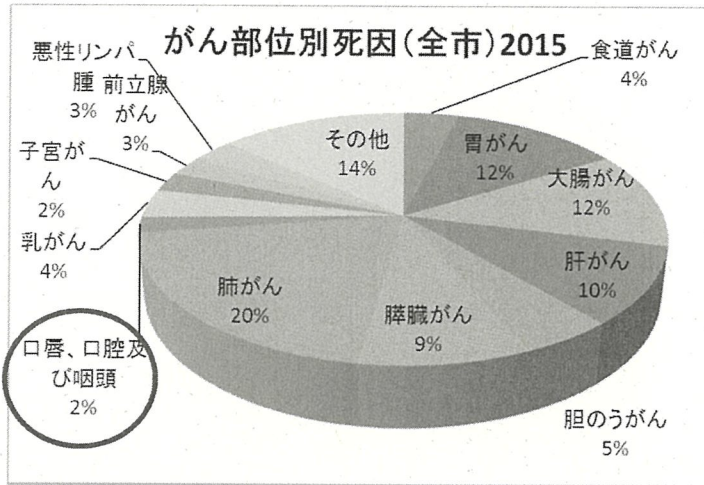
口腔癌の主な危険因子としては喫煙と飲酒が挙げられている。

CQ 口腔癌の前癌病変である白板症の癌化率はどのくらいか？

口腔白板症の癌化率は、海外では0.13~17.5%であり、わが国では3.1~16.3%である。

神戸市における 口唇、口腔及び咽頭がんの統計(死因)

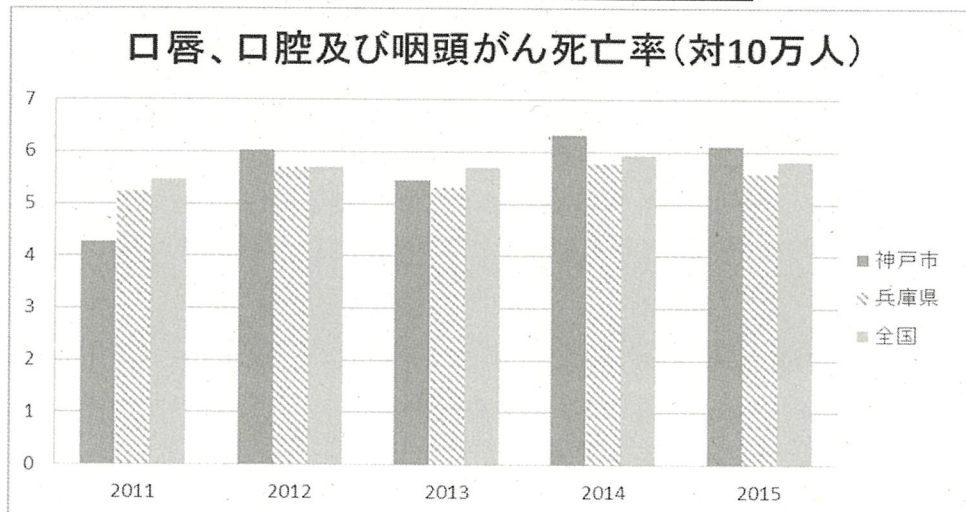
1. 口唇・口腔及び咽頭がんによる死因の全がんに対する割合(2015人口動態)



2. 口唇、口腔及び咽頭がんによる死亡数と死亡率の全国比較(2011~2015 人口動態)

口唇、口腔及び咽頭がんの死亡者数全国比較(人)

年度	神戸市	兵庫県	全国
2011	66	288	6888
2012	93	314	7167
2013	84	292	7179
2014	97	316	7415
2015	94	309	7380



(口腔がん検診 政令市における実施状況)

	札幌市	さいたま市	千葉市		横浜市	川崎市	相模原市
	集団	集団	個別	集団	各支部で様々	集団	集団
対象者	20歳以上	市内在住の40歳以上で、過去に同検診を受けていない方	40歳以上の市民、症状のある方	市政だよりを見て申し込んだ市民	各支部で様々な実施方法	30歳以上	40歳以上
日程	歯と口の健康週間のうち、半日(相談、検診、啓発(自己啓発シート等))	年1回(2時間半で講演会と検診)	平成28年6月1日より往復はがきで募集6月末必着7月1日～12月22日まで受診可能	6月4日～10日 歯と口の健康週間のイベント「ヘルシーカムカム」(市と市歯科医師会合同開催)の1コーナーで実施。	例：栄区では、6月4日～18日 歯と口の健康週間	年1回	年3回(7月・11月・3月)
実施場所	イベントの中で実施	歯科医師会 ホール	市内口腔がん検診協力歯科医療機関(市内103ヶ所) 医療機関は、下記の研修※を年間6単位受講することが必要	そごう千葉店	各支部で様々な実施方法	市内	相模原口腔保健センター
自己負担	なし	なし	1,000円	なし	なし	なし	500円 ※下記に該当するものは費用免除
開始	平成26年度	H24年度	平成23年度	平成4年度	平成21年度	H19年度	H21年度
定員・実績	定員 60名	定員 90名	定員 600名	定員 150名 受診者数 H28:149名、 H27:193名、H26:191名 予約(往復葉書)+当日申込	各支部で様々な実施方法	定員 45名 84%(平成27年度)	定員 195名(65名×3回) 90.8%(定員195人・受診者数 177人)
実施主体	札幌市保健所 (全体のイベントは市歯科医師会と市で共催)	歯科医師会	市	千葉市歯科医師会	(市歯科医師会と横浜市で共催)神奈川県歯科医師会の事業を各支部が実施	川崎市歯科医師会	相模原市 (公社)相模原市歯科医師会へ委託
市の関与	コールセンター受付、会場費 広報など	補助 広報など	歯科医師会へ委託 広報は、市政だより及び自治会の回覧等 を実施	補助 イベントにかかる負担金を 市歯科医師会へ補助	場所の協力、開設届、広報など	広報(市政だより)に掲載	事業の企画立案
予算額		(H28当初予算) 歯科医師会への補助金:6,000 千円 →補助対象事業費: 7,866,600円 (うち、当該講演会・検診の事業 費は1,165,300円)	5,663千円 検診費 3,339,600円 (5,566円×600人) 事業費 2,322,514円	東京歯科大学への報償費など、 (千葉市歯科医師会より 266 千円)	市歯科医師会と横浜市で分担金 (県歯科医師会からの補助金)	189,000円	1,477千円
補足	口腔外科専門医(6名)が口腔 がん検診を実施		※・口腔がん協力医研修会(1回2単 位、年2回開催)・症例検討会(1回3 単位、年6回開催)・報告会(1回3単 位、年1回開催) 細胞診の結果は、東京歯科大学口腔外 科へ送るシステム 過去に、平成23年度1人、25年度2人、 27年度1人がん患者を発見	歯科医師会会員で、個別検診の 担当医師が、研修を兼ねて一緒に 検診をする	歯科医師会会員で、個別検診の 担当医師が、研修を兼ねて一緒に 検診をする 鶴見大学、神奈川歯科大学、昭 和大学など関与		※ 費用免除(70歳以上、69歳 以下で生活保護受給者・後期高 齢者医療被保険者証を持つもの、 中国残留邦人のもの)